

# もち米をめぐる状況

令和2年11月

公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構 もち米事業部

## 目 次

### 1. 生 産

- (1) 検査実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) もち米の道府県別作付上位品種・・・・・・・・ 2

### 2. 流 通

- (1) 集荷・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 契約栽培等の販売・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 販売数量・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (4) 米加工食品における原料使用状況・・・・・・・・ 6
- (5) 米加工食品の生産状況・・・・・・・・・・・・ 8

### 3. 加工原材料用米穀の使用状況・・・・・・・・・・ 11

### 4. 消費

- もちの購入量・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

### 5. 価格

- (1) 生産者価格・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (2) 販売価格・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (3) 小売価格・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

### 6. 輸出入

- (1) もち米等の輸入・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (2) 米・米加工品の輸出・・・・・・・・・・・・ 18

1. 生産

(1) 検査実績

水稲もち米の検査実績をみると、平成26年産うるち米の価格低迷等により、もち米の作付面積が増えて平成27年産（約224千トン）、平成28年産（約250千トン）と増加傾向にあったが、その後のもち米の在庫増や主食用うるち米へのシフトにより平成30年産では180千トン（対前年産比81%）となっている。

なお、令和元年産については、令和2年3月31日現在で前年産同期検査数量（173千トン）対比97%の約167千トンとなっている。

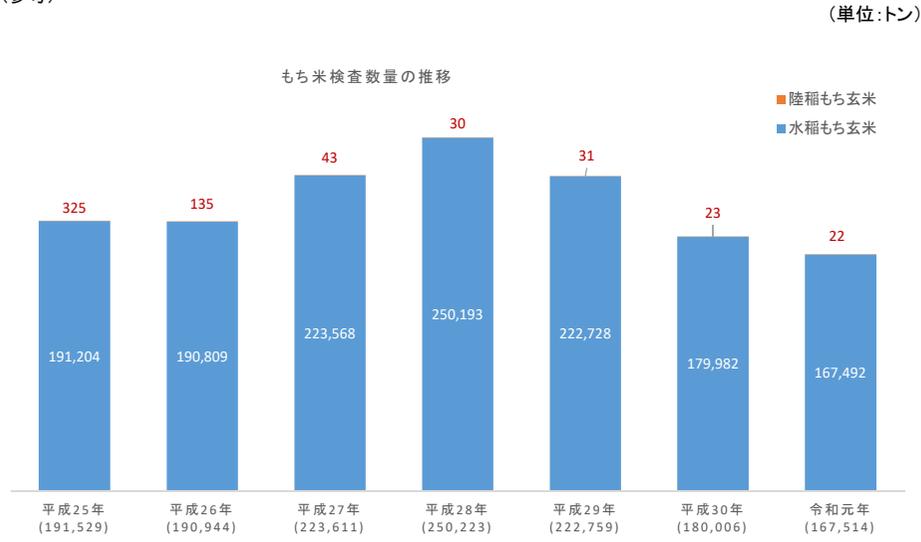
検査等級別にみれば、その比率に大きな変化はなく、1等が約5割、2等が約4割となっている。

平成30年産に関して産地銘柄別にみると、平成29年産において減少幅が大きかったみやこがねもち（宮城県）（29年産/28年産対比：76%）・わたぼうし（新潟県）（同比83%）・ヒメノモチ（同比80%）・きぬのはだ（秋田県）（同比86%）といった品種が、平成29年産に比べて更に2割を超える減少幅となっている。

なお、北海道産の風の子もち、はくちょうもち、及びヒヨクモチなどについては2割以内の減少幅に止まっている。

もち米の主産地は順位の変動はあるがほぼ固定化しており、上位10道県を合わせた検査数量は、全体の約8割以上を占めている。

(参考)



(単位:トン)

① 種類別検査数量 (単位:トン)

区分	29年産		30年産		前年産との比較		元年産		前年産との比較	
	①	②	②	③	②-①	②/①	③	③-②	③/②	
もち玄米	222,759	180,006	180,006	167,514	▲42,753	81%	167,514	▲12,492	93%	
水稲もち玄米	222,728	179,982	179,982	167,492	▲42,746	81%	167,492	▲12,490	93%	
陸稲もち玄米	31	23	23	22	▲8	75%	22	▲1	94%	

注:各翌年10月31日現在の確定値である。ただし、元年産については令和2年3月31日現在のものである。(以下、同様。)

資料:農林水産省「農産物検査結果」(以下、同様。)

② 水稲もち玄米の等級別検査数量 (単位:トン)

区分	29年産		構成比	前年産との比較		元年産		前年産との比較	
	①	②		②-①	②/①	③	構成比	③-②	③/②
水稲もち玄米	222,728	179,982	(100%)	▲42,746	81%	167,492	(100%)	▲12,490	93%
1等	114,985	91,026	51%	▲23,959	79%	92,123	55%	1,097	101%
2等	93,306	76,127	42%	▲17,179	82%	61,540	37%	▲14,587	81%
3等	7,988	7,844	4%	▲144	98%	7,328	4%	▲516	93%
規格外	6,450	4,985	3%	▲1,465	77%	6,502	4%	1,517	130%

注:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

③ 水稲もち玄米の品種別検査数量 (単位:トン)

区分	29年産		構成比	前年産との比較		元年産		前年産との比較	
	①	②		②-①	②/①	③	構成比	③-②	③/②
産地品種銘柄計	213,148	172,031	(100%)	▲41,117	81%	159,439	(100%)	▲12,592	93%
うち、上位10品種	172,606	139,440	81%	▲33,166	81%	131,258	82%	▲8,182	94%
ヒヨクモチ	39,851	35,382	21%	▲4,469	89%	23,918	15%	▲11,464	68%
ヒメノモチ	28,576	21,476	12%	▲7,100	75%	20,612	13%	▲864	96%
風の子もち	17,770	14,883	9%	▲2,887	84%	18,872	12%	3,989	127%
はくちょうもち	13,116	10,682	6%	▲2,434	81%	12,989	8%	2,307	122%
こがねもち	15,005	12,320	7%	▲2,685	82%	12,699	8%	379	103%
たつこもち	17,705	14,693	9%	▲3,012	83%	11,473	7%	▲3,220	78%
わたぼうし	14,852	11,405	7%	▲3,447	77%	11,152	7%	▲253	98%
きたゆきもち	9,290	7,155	4%	▲2,135	77%	9,127	6%	1,972	128%
きぬのはだ	10,301	6,847	4%	▲3,454	66%	6,258	4%	▲589	91%
みやこがねもち	6,140	4,597	3%	▲1,543	75%	4,158	3%	▲439	90%

注:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

④ 水稲もち玄米の主要県別検査数量 (単位:トン)

区分	29年産		30年産		前年産との比較		元年産		前年産との比較		
	①		②		②-①		③		③-②		
	産地	検査数量	産地	検査数量	②-①	②/①	産地	検査数量	③-②	③/②	
全国計		(100%)		(100%)				(100%)			
		222,728		179,982	▲42,746	81%		167,492	▲12,490	93%	
順位	1	北海道	43,621	北海道	36,318	▲7,303	83%	北海道	44,310	7,992	122%
	2	秋田	31,705	新潟	25,239	▲6,466	83%	新潟	24,237	▲1,002	100%
	3	新潟	30,283	秋田	24,145	▲6,138	76%	秋田	19,490	▲4,655	89%
	4	佐賀	24,427	佐賀	21,994	▲2,433	90%	佐賀	14,743	▲7,251	58%
	5	熊本	13,779	熊本	11,154	▲2,625	81%	岩手	9,063	▲1,333	81%
	1~5計		(65%)		(66%)	▲24,966	83%		(67%)	▲7,006	94%
			143,815		118,849			111,843			
	6	岩手	10,973	岩手	9,196	▲1,777	84%	熊本	8,318	▲2,836	90%
	7	千葉	10,551	千葉	7,361	▲3,190	70%	千葉	6,996	▲365	95%
	8	山形	9,327	山形	7,201	▲2,126	77%	山形	6,841	▲360	95%
9	宮城	6,471	宮城	4,878	▲1,593	75%	宮城	4,257	▲621	87%	
10	富山	4,861	富山	4,156	▲705	86%	富山	4,027	▲129	97%	
1~10計		(84%)		(84%)	▲34,356	82%		(85%)	▲9,360	94%	
		185,998		151,642			142,282				

注:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

(2)もち米の道府県別作付上位品種

●もち米の道府県別作付上位品種

令和元年産もち米の作付上位品種割合について、前年産対比で  
 ・北海道では、道内作付1位の風の子もちが微減  
 ・新潟県では、こがねもちが微減  
 ・佐賀県では、作付けの大多数を占めるヒヨクモチが微増  
 ・大分県のヒヨクモチの作付割合が半減  
 ・静岡県ではヒヨクモチに代わって峰の雪もちが1位の作付割合などの状況となっている。

また、広域で作付けされている主なもち米品種の作付状況について、  
 ・ヒメノモチは、主要産地の岩手県、山形県、千葉県で7～8割  
 ・ヒヨクモチは、福岡県、佐賀県、熊本県で8～10割  
 ・みやこがねもちは、宮城県で9割以上  
 ・たつこもちは、秋田県で6割以上  
 などとなっている。

道府県	平成30年産						令和元年産					
	作付順位(道府県のもち米作付面積に占める割合)						作付順位(道府県のもち米作付面積に占める割合)					
	1位		2位		3位		1位		2位		3位	
	品種	割合	品種	割合	品種	割合	品種	割合	品種	割合	品種	割合
北海道	風の子もち	37.5	はぐちようもち	32.0	きたゆきもち	27.4	風の子もち	37.2	はぐちようもち	33.0	きたゆきもち	26.8
青森	あかりもち	62.1	アネコモチ	37.9	あかりもち	60.0	アネコモチ	40.0				
岩手	ヒメノモチ	75.5	こがねもち	14.5	もち美人	6.6	ヒメノモチ	77.6	こがねもち	12.9	もち美人	6.8
宮城	みやこがねもち	96.4	ヒメノモチ	2.6	こもちまる	1.1	みやこがねもち	95.8	ヒメノモチ	3.2	こもちまる	1.0
秋田	たつこもち	62.7	きぬのはた	37.3			たつこもち	65.2	きぬのはた	34.8		
山形	ヒメノモチ	70.4	でわのもち	11.1	こゆきもち	7.4	ヒメノモチ	70.4	でわのもち	11.1	こゆきもち	7.4
福島	こがねもち	76.9	ヒメノモチ	23.1			こがねもち	72.6	ヒメノモチ	27.4		
茨城	マンゲツモチ	92.6	ヒメノモチ	3.7	ココノエモチ	3.7	マンゲツモチ	92.6	ヒメノモチ	3.7	ココノエモチ	3.7
栃木	きぬはなもち	83.3					きぬはなもち	83.3	ヒメノモチ	8.3		
群馬	群馬糯5号	56.2	まんぶくもち	13.7	マンゲツモチ	10.4	群馬糯5号	45.5	まんぶくもち	7.6	マンゲツモチ	3.8
埼玉	マンゲツモチ	46.4	峰の雪もち	28.9			峰の雪もち	50.0				
千葉	ヒメノモチ	77.8	ふさのもち	22.2			ヒメノモチ	78.6	ふさのもち	21.4		
神奈川	喜寿糯	80.5	マンゲツモチ	13.0			喜寿糯	80.8	マンゲツモチ	13.7		
新潟	こがねもち	47.8	わたぼうし	43.5			こがねもち	47.6	わたぼうし	42.9		
富山	新大正糯	67.0	とみちから	18.0	らいちようもち	5.6	新大正糯	67.2	とみちから	19.4	らいちようもち	5.9
石川	カグラモチ	46.4	白山もち	25.0	石川糯24号	14.3	カグラモチ	39.6	白山もち	31.9	石川糯24号	14.1
福井	カグラモチ	56.0	タンチョウモチ	44.0			カグラモチ	54.0	タンチョウモチ	46.0		
山梨	マンゲツモチ	29.3	こがねもち	27.2	黒米朝紫	15.2	こがねもち	28.9	マンゲツモチ	25.3	黒米朝紫	15.7
長野	もちひかり	60.0	モリモリモチ	21.7	カグヤモチ	3.0	もちひかり	61.4	モリモリモチ	20.1	カグヤモチ	3.3
岐阜	たかやまもち	69.2	モチミノリ	16.6	ココノエモチ	3.9	たかやまもち	71.7	モチミノリ	18.8	ココノエモチ	9.0
静岡	ヒヨクモチ	57.1	峰の雪もち	36.2	葵美人	6.7	峰の雪もち	40.1	葵美人	37.0	ヒヨクモチ	22.8
愛知	十五夜糯	20.0	喜寿糯	8.0	ココノエモチ	8.0	十五夜糯	20.0	喜寿糯	8.0	ココノエモチ	8.0
三重	あゆみもち	50.0	カグラモチ	22.2	喜寿糯	16.7	あゆみもち	47.1	カグラモチ	23.5	喜寿糯	11.8
滋賀	滋賀羽二重糯	88.5					滋賀羽二重糯	86.0				
京都	新羽二重糯	100.0					新羽二重糯	100.0				
大阪	モチミノリ	100.0					モチミノリ	100.0				
兵庫	はりまもち	38.2	ヤマフクモチ	21.1	マンゲツモチ	16.4	はりまもち	35.1	ヤマフクモチ	23.1		
奈良	旭糯	40.8	ココノエモチ	31.0			旭糯	30.4	ココノエモチ	25.3		
和歌山	モチミノリ	92.3					モチミノリ	86.5				
鳥取	ヒメノモチ	42.2	ハクトモチ	39.4			ヒメノモチ	41.8	ハクトモチ	39.6		
岡山	ヒメノモチ	49.4	ココノエモチ	28.4	ヤシロモチ	8.6	ヒメノモチ	51.3	ココノエモチ	25.6	ヤシロモチ	9.0
広島	ヒメノモチ	51.9	ココノエモチ	39.8	タンチョウモチ	8.2	ヒメノモチ	53.7	ココノエモチ	38.1	タンチョウモチ	8.1
山口	ミヤタマモチ	44.0	マンゲツモチ	24.0	ヒヨクモチ	16.0	ミヤタマモチ	47.8	マンゲツモチ	26.1	ヒヨクモチ	13.0
徳島	モチミノリ	81.0					モチミノリ	81.0				
愛媛	クレナイモチ	36.7	モチミノリ	20.0			クレナイモチ	37.0	モチミノリ	18.5		
高知	たまひめもち	15.8	サイワイモチ	10.5	ヒデコモチ	10.5	たまひめもち	16.7	サイワイモチ	11.1	ヒデコモチ	5.6
福岡	ヒヨクモチ	100.0					ヒヨクモチ	100.0	(2位以下の品種はうるち米に含まれる。)			
佐賀	ヒヨクモチ	98.5	ヒデコモチ	1.1			ヒヨクモチ	98.8	ヒデコモチ	0.9		
長崎	ヒヨクモチ	20.0	サイワイモチ	11.9	モチミノリ	8.8	ヒヨクモチ	20.6	サイワイモチ	12.3	モチミノリ	7.7
熊本	ヒヨクモチ	82.1	峰の雪もち	5.9			ヒヨクモチ	83.7	峰の雪もち	5.3		
大分	ヒヨクモチ	33.4	ハクトモチ	10.1	ひみこもち	10.1	ヒヨクモチ	16.2	ハクトモチ	12.3	ひみこもち	3.2
宮崎	クスタマモチ	48.7	いわともち	20.7	ヒヨクモチ	9.9	クスタマモチ	44.7	いわともち	17.6	ヒヨクモチ	7.9
鹿児島	さつま縹もち	23.8	サイワイモチ	20.0	さつま雪もち	15.2	さつま縹もち	50.0	さつま雪もち	20.0	峰の雪もち	15.0

注1. 公益社団法人米穀安定供給確保支援機構(情報部)公表資料「水稻の品種別作付動向について」より作成。  
 注2. 品種別の作付面積に占める割合は、道府県行政等からの情報提供いただいた数値を用いて推計した。  
 注3. 鳥根県、香川県及び沖縄県については、平成30年産又は平成30年産・令和元年産の品種別データが把握できなかったため掲載していない。

## 2. 流通

### (1) 集荷

出荷団体では主食用の他に加工用等の集荷も行っているが、ここでは主食用に限って取りまとめたものである。

### ① もち米(主食用)の集荷数量

(単位:トン)

区分	29年産		30年産		前年産との比較		元年産		前年産との比較	
	①	②	②-①	②/①	③	③-②	③/②			
道府県数	42	42			41					
集荷数量	92,450	76,387	▲ 16,063	83%	72,114	▲ 4,273	94%			
水稲もち	92,439	76,374	▲ 16,065	83%	72,096	▲ 4,278	94%			
陸稲もち	11	13	2		18	5				

注: 全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

① 全国出荷団体の水稲もち米(主食用)集荷量は、平成29年産まで10万トン内外であったが、平成30年産以降7万トン台の水準で推移しており、検査数量に占める比率は40%程度となっている。

(参考) 水稲もち米の総検査数量と水稲もち米(主食用)の集荷数量

年産	水稲もち米 総検査数量①	水稲もち米(主食用) 集荷数量②	比率 ②/①
29	222,728トン	92,439トン	42%
30	179,982トン	76,374トン	42%
元	167,492トン	72,096トン	43%

### ② 水稲もち米(主食用)の主要県別集荷数量

(単位:トン)

区分	29年産		30年産		前年産との比較		元年産		前年産との比較		
	県名	集荷数量	県名	集荷数量	②-①	②/①	県名	集荷数量	③-②	③/②	
全国計		(100%) 92,439		(100%) 76,374	▲ 16,065	83%		(100%) 72,096	▲ 4,278	94%	
順位	1	北海道	30,617	北海道	25,153	▲ 5,464	82%	北海道	31,791	6,638	126%
	2	佐賀	20,561	佐賀	18,441	▲ 2,120	90%	佐賀	10,860	▲ 7,581	59%
	3	岩手	8,065	岩手	7,201	▲ 864	120%	岩手	5,857	▲ 1,344	81%
	4	新潟	6,008	新潟	5,543	▲ 465	69%	新潟	5,715	172	103%
	5	熊本	4,276	熊本	3,392	▲ 884	122%	熊本	2,846	▲ 546	84%
	1~5計	(75%) 69,527		(75%) 59,730	▲ 9,797	86%		(79%) 57,069	▲ 2,661	96%	
順位	6	宮城	2,776	福岡	2,404	▲ 76	56%	宮城	2,021	▲ 253	89%
	7	秋田	2,708	宮城	2,274	▲ 502	84%	山形	1,852	▲ 601	148%
	8	福岡	2,480	岐阜	2,000	▲ 260	81%	岐阜	1,793	▲ 207	90%
	9	岐阜	2,260	富山	1,439	▲ 352	75%	福岡	1,790	▲ 614	74%
	10	山形	1,929	秋田	1,406	▲ 1,302	66%	秋田	1,527	121	109%
	1~10計	(88%) 81,680		(88%) 69,253	▲ 12,427	85%		(92%) 66,052	▲ 3,201	95%	

注: 全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

② 水稲もち米の検査数量上位10道県では、総検査数量に対する水稲もち米(主食用)の集荷数量が多い産地は北海道、佐賀県、岩手県、逆に少ない産地は秋田県、千葉県となっている。

(参考) 主産地における水稲もち米の総検査数量と水稲もち米(主食用)の集荷数量

産地	水稲もち米の総検査数量 (29~元年産平均)①	水稲もち米(主食用)の集荷 数量(29~元年産平均)②	比率 ②/①
北海道	41,416トン	29,187トン	70%
新潟	26,586トン	5,755トン	22%
秋田	25,113トン	1,880トン	7%
佐賀	20,388トン	16,621トン	82%
熊本	11,084トン	3,505トン	32%
岩手	9,744トン	7,041トン	72%
千葉	8,303トン	104トン	1%
山形	7,790トン	1,677トン	22%
宮城	5,202トン	2,357トン	45%
富山	4,348トン	1,494トン	34%

(2) 契約栽培等の販売

○ 契約栽培等の販売の仕組み

もち米(主食用)の販売は、「契約栽培」、「年間契約」、「スポット取引」の3つの方法で行われている。

契約栽培については、品質・用途別の需要に対応し、安定した生産と供給を図るため、平成16年産米から複数年契約(は種前契約栽培)が行われている。

また、年間契約は、もち米の出回り時期に、集荷が確実な数量から既契約数量(契約栽培数量)を差し引いたものが産地銘柄別に提示され、販売契約が行われるものである。

全国出荷団体の年間総取扱数量のうち6~7割が契約栽培と年間契約を合わせた契約販売によるものであり、取引は安定したものとなっている。

○ 契約栽培等の販売数量の推移

もち米(主食用)の販売数量が減少しているに伴い契約販売数量も減少しているが、総販売数量に占める契約販売数量の比率は6~7割で推移している。

(参考)

○ 契約栽培等の販売数量等の推移

(単位:トン)

米穀年度	契約販売数量 ① (契約栽培+年間契約)	総販売数量 ②	①/②
平成27米穀年度	74,176	99,145	75%
平成28米穀年度	64,702	97,379	66%
平成29米穀年度	75,317	90,769	83%
平成30米穀年度	60,566	90,833	67%
令和元米穀年度	61,609	91,918	67%

注: 全国出荷団体資料による。

○ 契約栽培等の販売数量

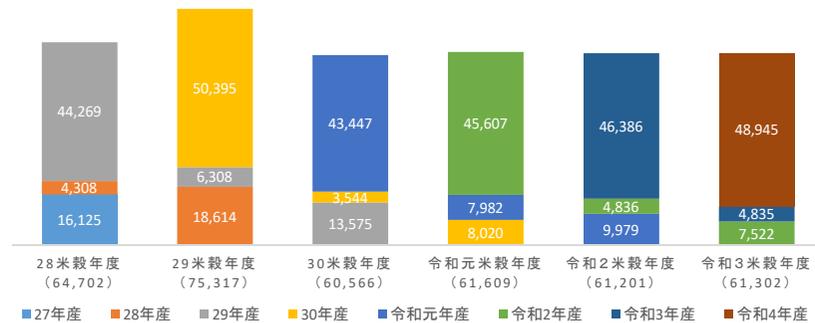
(単位:トン)

米穀年度	年産	契約数量			契約済数量累計
		契約栽培	年間契約	合計	
平成28米穀年度	27年産	7,206	8,919	16,125	71,292
	28年産	4,308	-	4,308	50,400
	29年産	44,269	-	44,269	44,269
平成29米穀年度	28年産	10,989	7,626	18,614	69,014
	29年産	6,308	-	6,308	50,576
	30年産	50,395	-	50,395	50,395
平成30米穀年度	29年産	7,948	5,627	13,575	64,151
	30年産	3,544	-	3,544	53,939
	令和元年産	43,447	-	43,447	43,447
令和元米穀年度	30年産	6,797	1,222	8,020	61,959
	令和元年産	7,982	-	7,982	51,429
	令和2年産	45,607	-	45,607	45,607
令和2米穀年度	令和元年産	6,226	3,753	9,979	61,408
	令和2年産	4,836	-	4,836	50,443
	令和3年産	46,386	-	46,386	46,386
令和3米穀年度	令和2年産	7,522	α	7,522+α	57,965+α
	令和3年産	4,835	-	4,835	51,221
	令和4年産	48,945	-	48,945	48,495

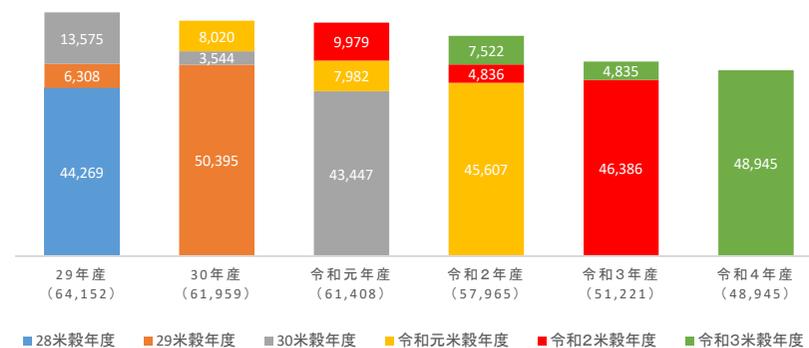
注1: 全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

注2: 上表の「α」とは、10月末~12月頃締結予定の年間契約数量であり、2年産はこの年間契約数量を加えた数量が総契約数量となる。

もち米(主食用)の契約栽培等販売数量の推移(米穀年度別)



もち米(主食用)の契約栽培等販売数量の推移(年産別)



(3) 販売数量

① もち米（主食用）の月別販売数量

もち米の販売数量は季節間の変動が大きく、例年、10月頃から年末にかけての3ヶ月間が販売のピークで、平常月の2～3倍の販売量となっている。

もち米の年間販売数量は、近年減少して約9万トン程度で推移しているが、令和元米穀年度については前年度に比べ若干増加した販売数量（対前年度比101%）となった。

なお、令和2米穀年度11月～7月までの販売合計数量は、前米穀年度同期（65,768トン）対比90.8%となっている。

① もち米（主食用）の月別販売数量 (単位:トン)

区 分	平成28米穀年度	平成29米穀年度	平成30米穀年度	令和元米穀年度	令和2米穀年度
11月	12,448	11,947	11,540	12,180	11,676
12月	13,206	12,420	13,156	11,973	12,566
1月	5,255	4,671	4,457	4,023	4,734
2月	6,510	5,051	5,539	5,028	5,293
3月	7,202	6,557	8,406	13,475	6,161
4月	6,940	5,640	5,246	5,274	5,662
5月	5,024	4,272	4,336	4,828	3,866
6月	6,003	5,665	5,012	3,949	3,998
7月	6,650	5,541	5,932	4,447	5,777
8月	7,024	6,679	6,263	4,592	
9月	9,238	8,530	6,841	5,558	
10月	11,877	13,797	14,103	16,591	
合 計	97,379	90,769	90,833	91,918	59,735

注：全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

② もち米（主食用）の主要県別販売数量 (単位:トン)

区 分	平成28米穀年度		平成29米穀年度		平成30米穀年度		令和元米穀年度		令和2米穀年度		
	県 名	販売数量	県 名	販売数量	県 名	販売数量	県 名	販売数量	県 名	販売数量	
全国計		(100%) 97,379		(100%) 90,769		(100%) 90,833		(100%) 91,918		(100%) 59,735	
順 位	1	新潟	28,670	東京	21,131	新潟	20,010	東京	22,296	新潟	14,386
	2	東京	19,098	新潟	21,045	東京	18,587	新潟	20,533	東京	13,454
	3	北海道	9,363	北海道	7,426	愛知	5,932	愛知	6,141	北海道	5,935
	4	愛知	6,648	愛知	6,056	北海道	5,116	兵庫	5,649	兵庫	4,620
	5	兵庫	3,456	兵庫	3,700	兵庫	4,121	北海道	5,511	愛知	4,213
	1～5 計		(69%) 67,235		(65%) 59,358		(59%) 53,766		(65%) 60,130		(71%) 42,608
	6	福岡	2,463	福岡	2,952	福岡	3,075	福岡	3,398	神奈川	1,703
	7	熊本	2,290	岐阜	2,418	熊本	2,744	神奈川	2,611	栃木	1,299
	8	島根	2,236	神奈川	2,141	岐阜	2,655	熊本	2,322	熊本	1,262
	9	岐阜	2,198	熊本	2,109	宮城	2,550	富山	2,194	岐阜	1,200
10	神奈川	2,103	大阪	1,829	神奈川	2,094	岐阜	1,989	富山	1,074	
1～10 計		(81%) 78,525		(78%) 70,807		(74%) 66,884		(79%) 72,644		(82%) 49,146	

注1：全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2：令和2米穀年度の販売数量は令和元年11月～令和2年7月までの販売数量である。

(単位:トン)

#### (4) 米加工食品におけるもち米等の原料使用状況

農林水産省「食品産業動態調査」によると、もち米の加工を行う各事業者が使用する原料は、国内産もち米(民間流通米、加工用米、その他)、外国産もち米、米穀粉、輸入米粉調製品などである。

※ 食品産業動態調査は食品需給研究センターがアンケート調査により実施したものであり、必ずしも毎年同じ企業が回答するとは限らないので標本連続性が担保されているわけではないことに留意が必要である。

##### 【平成31年度(令和元年度)標本調査の概要】

調査対象 : 調査対象企業数556社

(畜産食料品～酒類まで広範な業種が対象となっている。)

調査時期 : 令和元年4月～令和2年3月

調査方法 : 郵送・FAX・メール・電話による聞き取り

回答企業数:313社(回答率56.3%)

##### ① 米穀粉製造業

調査回答企業の原料使用実績をみると、令和元年における民間流通、加工用、新規需要米、その他を合わせた国内産もち米の使用比率は全体の約8割であり、平成30年からは新たにもち米等の新規需要米が使用された。

一方で調査回答企業による輸入米粉調製品の比率は年々減少し、令和元年においては使用実績がなく、すべて国内産もち米の使用となっている。

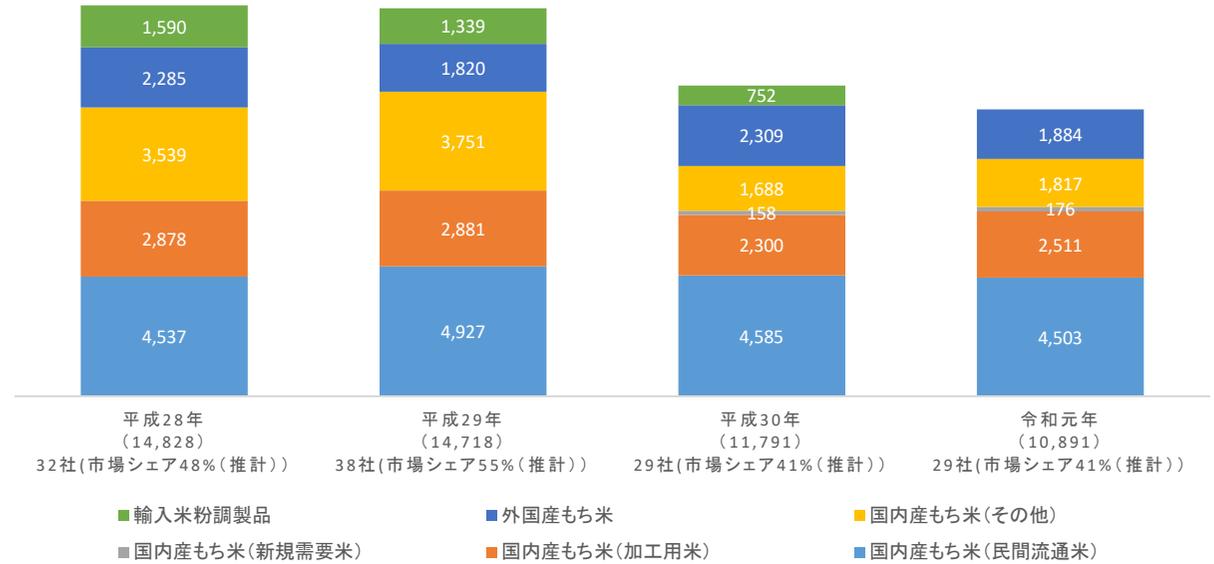
なお、もち米以外の原料として令和元年の調査回答企業のうち米等の使用実績は45,477トンであった。

##### ② 加工米飯製造業

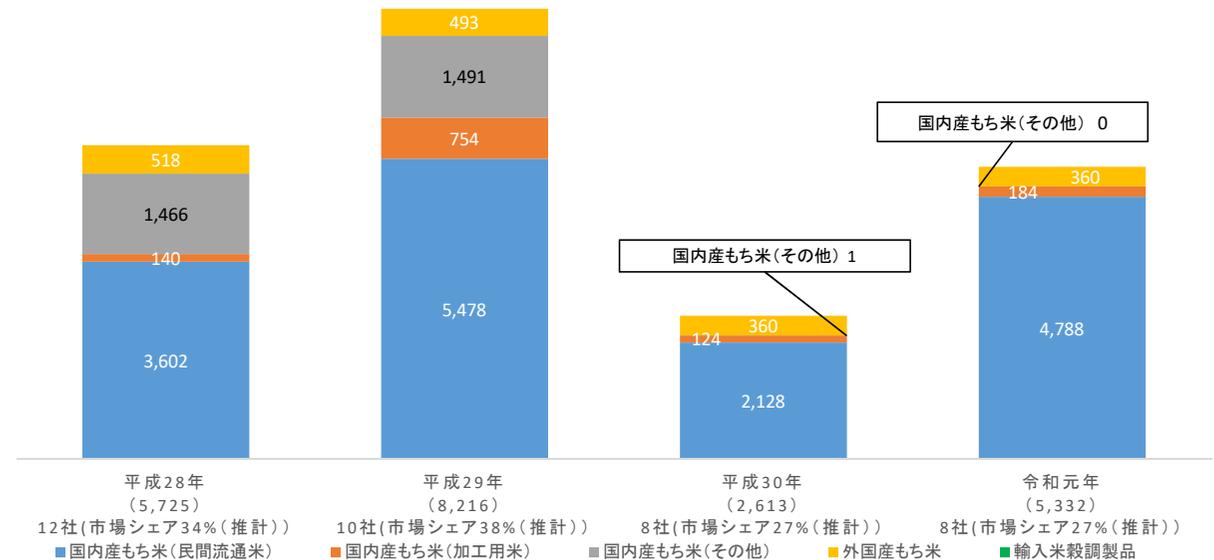
調査回答企業の原料使用実績をみると、令和元年ではもち米等の原料使用数量が前年の約2倍と大きく増加し、特に民間流通米の使用数量は前年の2.2倍程度まで増加した。

なお、もち米以外の原料として令和元年の調査回答企業のうち米等の使用実績は44,521トンであった。

##### ① 米穀粉製造業の原料もち米の使用数量(調査回答企業の実績)



##### ② 加工米飯製造業の原料もち米の使用数量(調査回答企業の実績)



③ 米菓製造業

(単位:トン)

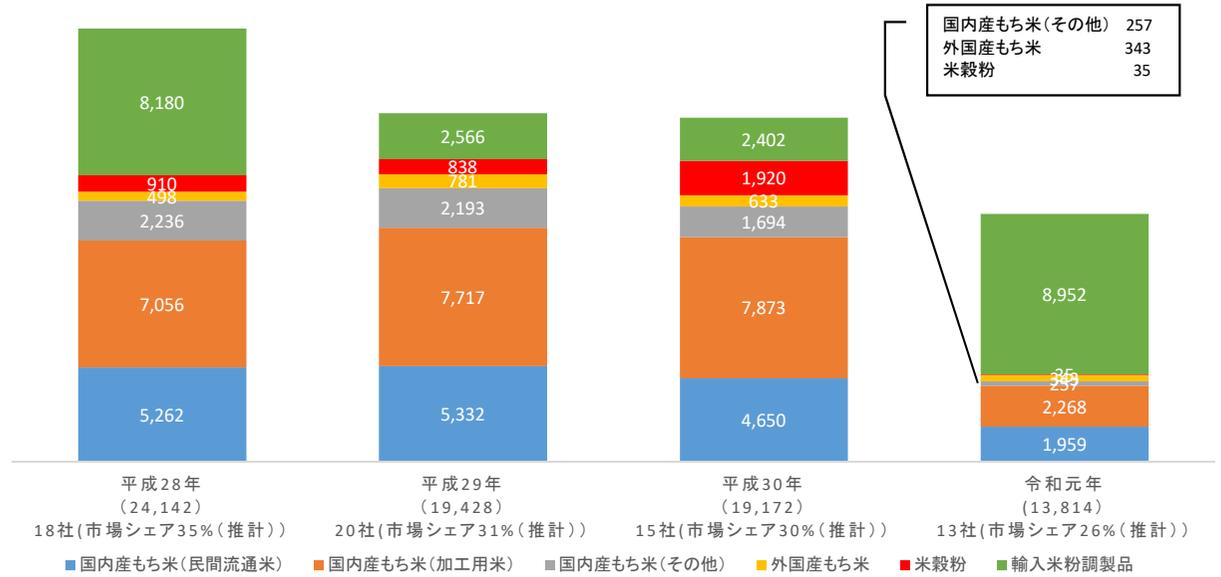
調査回答企業の原料使用実績をみると、近年、輸入米粉調製品の使用比率が大幅に減少していたが、令和元年の輸入米粉調整調製品が増加した一方、国内産加工用もち米等の使用量が減少した。

なお、輸入米粉調製品は国内産もち米、外国産もち米の「代替品」として用いられ、年々の国内産もち米、及び外国産もち米の生産及び価格の動向により、その使用数量が大きく変動する特徴を有している。

また、輸入米粉調製品を原料とした生産ラインを有している米菓企業は限定されているので、回答企業にそのような企業が含まれ、たまたま使用量を増加させた場合に右のような数値が示されるが、全体の傾向を示したものとは言えないことに留意が必要である。

一方でもち米以外の原料として令和元年の調査回答企業のうち米等の使用実績は46,324トンであった。

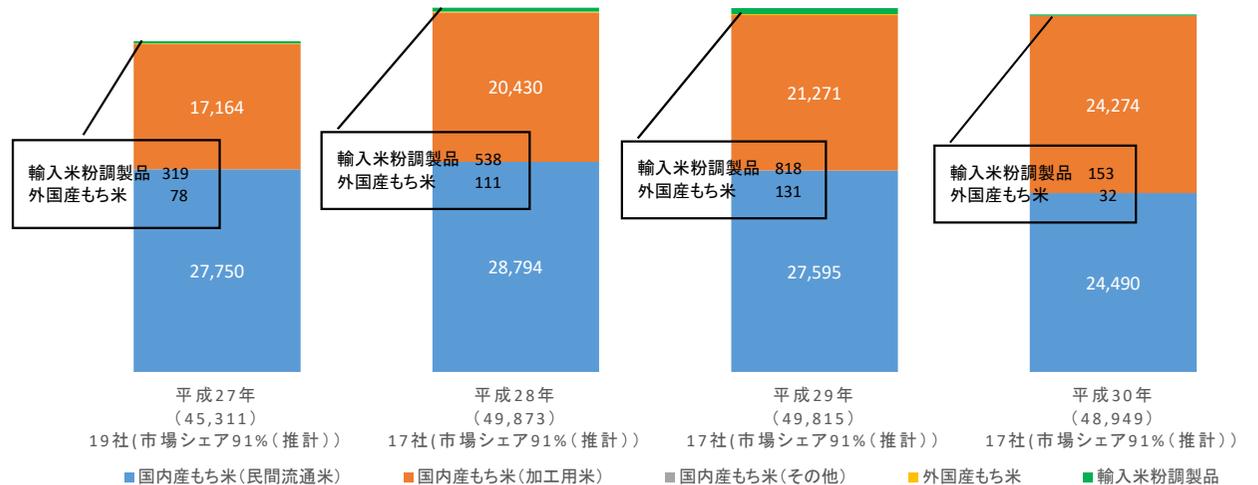
③ 米菓製造業の原料もち米の使用数量(調査回答企業の実績)



④ 包装もち製造業

調査回答企業の原料使用実績をみると、国内産民間流通もち米と加工用もち米で原料の太宗を占めているが、加工用もち米の使用比率が年々増加し、平成30年では国内産民間流通もち米とほぼ同数量となった。

④ 包装もち製造業の原料もち米の使用数量(調査回答企業の実績)



(5) 米加工食品の生産状況

① 米穀粉の生産数量

① 米穀粉

生産量全体の約5割を上新粉が占め、残りは、新規米粉(約3割)、もち粉(約1割)、その他となっている。  
 最近ではもち粉が減少傾向にある一方で、新規米粉が増加しており、米穀粉全体の生産量の底上げに寄与しているが伸び悩み傾向にある。

(参考)

米穀粉の種類

上新粉：精白したうるち米を水洗いして水切りし、しばらく乾燥させてから製粉したもの。

もち粉：もち米を水洗いして水切りし、しばらく乾燥させてから製粉したもの。

寒梅粉：精白したもち米を水洗いし、水漬けし、蒸して「もち」にして、それを白く焼き上げた後、粉碎(製粉)したもの。

落雁粉：もち米を水洗いしてしばらく乾燥させた後、蒸煮することなく焙煎して、製粉したもの。

みじん粉：もち米(又はうるち米)を蒸煮後、これを乾燥し、焙煎して製粉したもの。

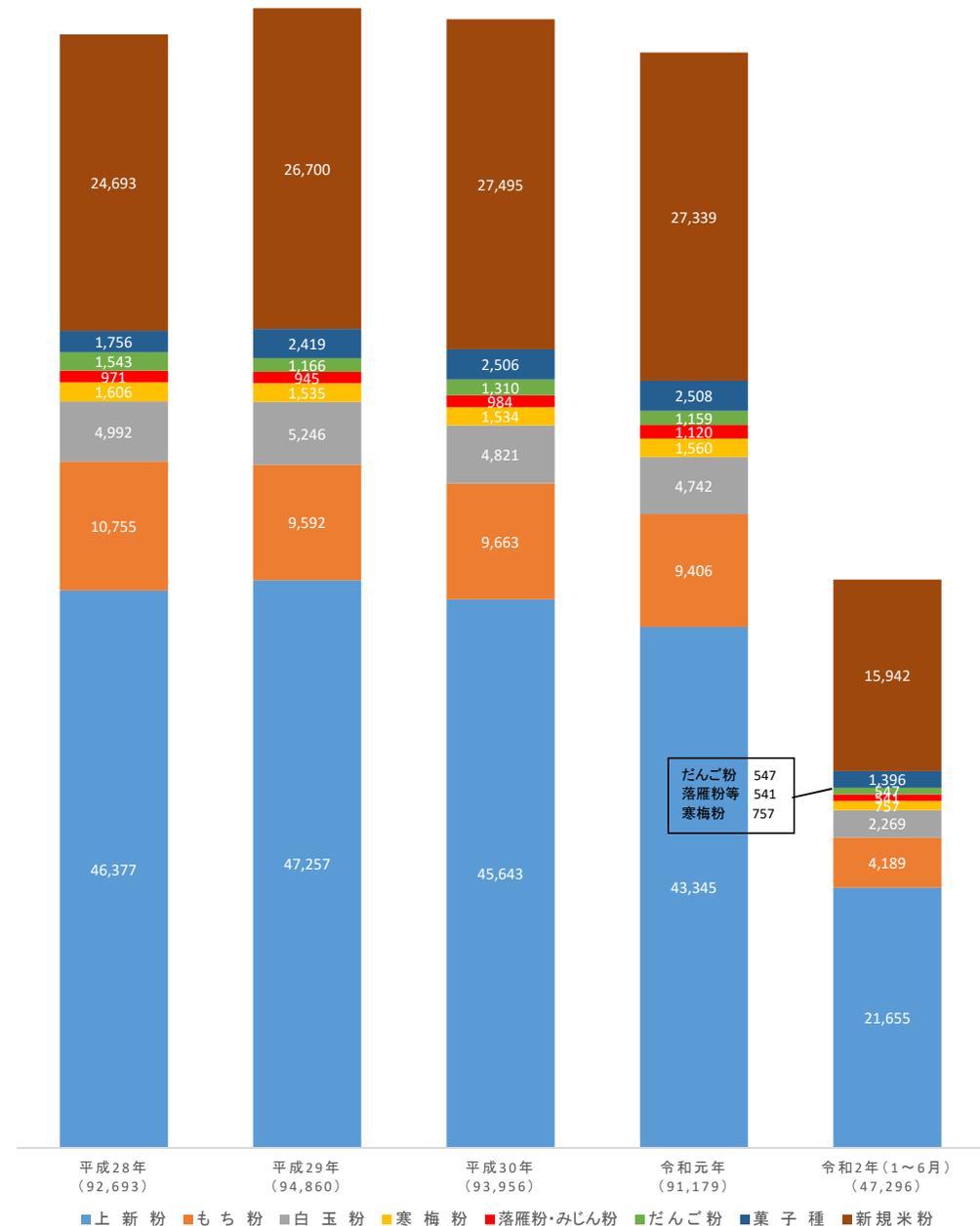
だんご粉：うるち米・もち米を精白し、水洗いしてしばらく水に漬けた後、粉碎(製粉)し、乾燥したもの。

菓子種：道明寺、上南粉などの「粒形」をしたものの総称。

道明寺：もち精米を水に浸し蒸してから乾燥して干飯(ほししい)を作り、それを粗く砕いたもの。

上南粉：もち米をよく洗い、水に浸し蒸してから乾燥させ粉碎し、少しずつ煎りあげたもの。

新規米粉：従来作られてきた米粉の製法とは異なる新たな製法で、上新粉よりも細かい微細粒粉に製粉したもので、従来の米粉食品以外に、米粉パン、米粉麺、ケーキ、ホワイトソース等、新しい分野に米粉を使う目的で開発されたもの。



## ② 加工米飯

生産量全体の約9割を冷凍米飯(45%)と無菌包装米飯(45%)が占めている。

レトルト米飯が横ばいで推移し、缶詰米飯・チルド米飯が減少している中で、無菌包装米飯と冷凍米飯が増加しており、加工米飯全体の生産量は増加している。

(参考)

### 加工米飯の種類

**レトルト米飯:** 調理されたご飯を、空気が入らない密閉容器に入れ、高温加熱殺菌したもので、常温で6ヶ月～1年保存できる。白ごはんのほか赤飯、炊き込みご飯、おかゆ、雑炊などがある。

**無菌包装米飯:** 無菌設備の下、炊きたてのご飯を密閉容器に入れたもので、常温で6ヶ月保存できる。外見はレトルトご飯に似ているが、熱を加えずに包装するので味も良く普通のご飯とほとんど変わらないと言われている。

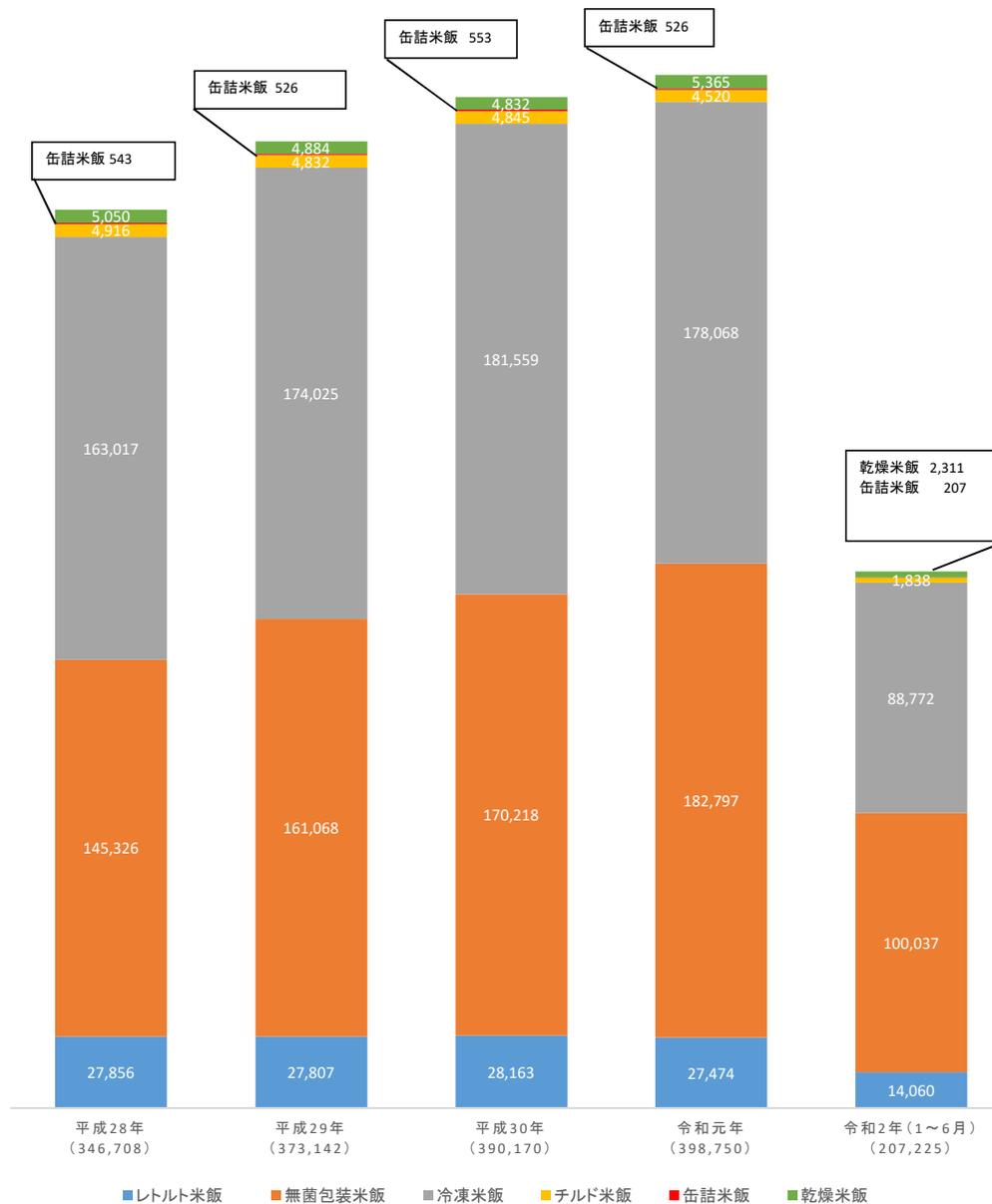
**冷凍米飯:** 調理したご飯を-40℃以下で急速冷凍したもので、-18℃で1年間保存できる。ピラフ、チャーハン、焼きおにぎりなどがあり、家庭での利用が増えている。

**チルド米飯:** 調理したご飯を包装した後殺菌し、利用するまで冷蔵庫で保存するもので、保存期間は2ヶ月くらい。主にデパートなどの食品売場で、出来たてを販売するおこわや赤飯などに利用されている。

**缶詰米飯:** 調理したご飯を缶に詰め、密閉して高温殺菌したもので、3年間保存できる。炊き込みご飯やおかゆなどがあり、非常食としても利用されている。

**乾燥米飯:** 調理したご飯を熱風などで急速乾燥させたもので、常温で3年間保存できる。軽くて持ち運びに便利のため、キャンプや登山、災害用非常食に利用される。

## ② 加工米飯の生産数量



### ③ 米菓

米菓生産の約4割があられ、約6割がせんべいである。  
最近では、米菓全体の生産量がわずかに増加しているなかで、あられの生産量が伸び悩んでいるのに対し、せんべいの生産量が増加している。

(参考)

米菓の種類

あられ: 原料はもち米で、搗いた餅を冷却して固め、小さく切断して生地にしてから余分な水分を除いた後、焼き窯で焼き上げ、醤油・塩などで味付けをしたもの。小型のものは「あられ」、大型のものは「おかき」、揚げたものは「揚げ餅」と呼ばれる。

せんべい: うるち米を搗いた後、すぐにローラーにより薄く伸ばしたものを型抜きして乾燥し、これを焼いたり揚げたりして醤油・塩などで味付けをしたもの。

(単位:トン)

#### ③ 米菓の生産数量



資料: 農林水産省「食品産業動態調査」による。

(単位:トン)

### ④ 包装もち

包装もち全体の生産量は概ね6万トン程度である。生産の太宗を生切りもちが占めており、最近では板もち、鏡もちの生産が減少してきている。

(参考)

包装もちの種類

各種の包装もちは、餅搗きまでの工程（原料米→異物選別→洗米→浸漬→水切り→蒸米→粗ねり→餅搗き）は同様であるが、その後の検査・検品までの工程の違いにより、以下のとおり分類されている。

板もち: (餅搗き)→計量袋詰→脱気包装→加熱殺菌→冷却→(検査・検品)

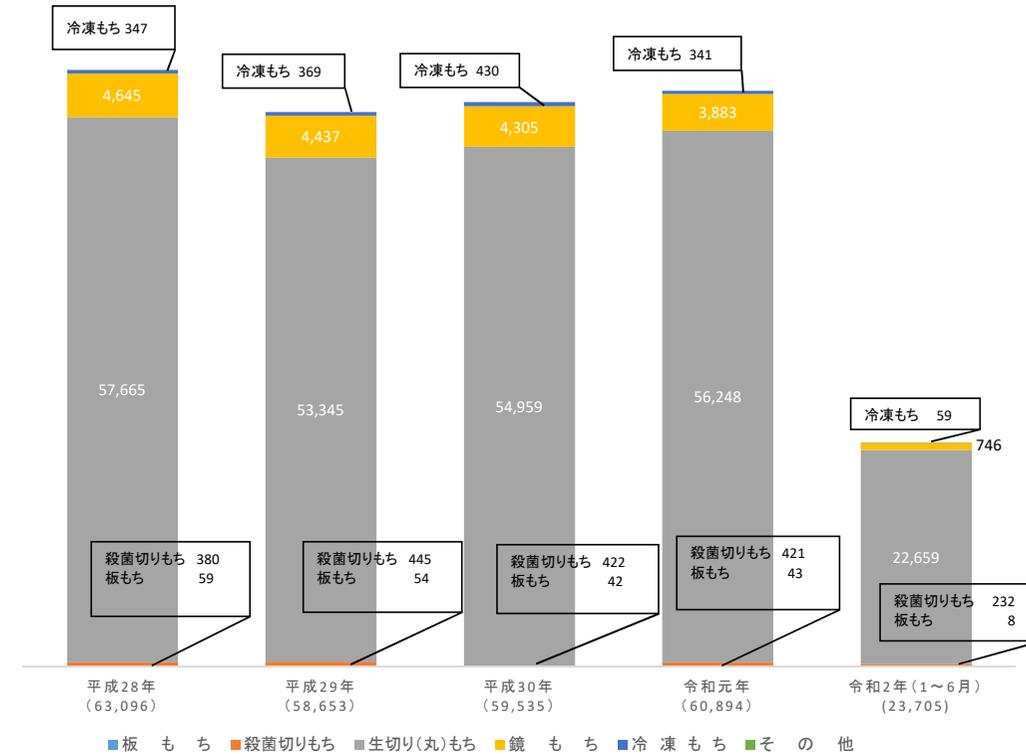
殺菌切りもち: (餅搗き)→成型→冷蔵固化→切断→真空包装→加熱殺菌→冷却固化→袋詰め→(検査・検品)

生切り(丸)もち: (餅搗き)→成型→冷蔵固化→(切断)→(個包装)→袋詰め→(検査・検品)

鏡もち: 基本的には板もちの工程と同様であるが、鏡もちの場合は袋ではなく鏡もち用のプラスチックケースに充填する。

冷凍もち: (餅搗き)→成型→軽く固化→切断→急速冷凍→計量・包装→(検査・検品)

#### ④ 包装もちの生産数量



注1: 令和2年の包装もちの内訳は業界資料による概数である。

注2: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

資料: 農林水産省「食品産業動態調査」による。

○ 加工原材料用米穀の使用状況(推計)の推移

3. 加工原材料用米穀の使用状況

- ・ 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成30米穀年度における使用量は、焼酎、包装もちの出荷量の減少等により、前年から微減の約96万トン(推計)である。
- ・ 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約7割、残りの約3割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米である。
- ・ 米菓を中心に特定米穀及び輸入米粉調製品の使用量が増加した。

(出展：「米に関するマンスリーレポート令和2年10月号による。)

〈うるち米〉

(単位:万トン)

制度 用途	米穀 年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉 調製品	うるち米 合計
清酒用	28	13 (10)	9		3			25 (10)
	29	12 (10)	9		3			24 (10)
	30	11 ( 9)	9		4			24 ( 9)
米菓用	28	1	2		6	3	1	12
	29	1	2		4	5	1	13
	30	1	1		5	5	2	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	28	5	5					10
	29	5	5					11
	30	5	6					11
味噌用	28	1	1		6	2		9
	29	1	1		2	7		10
	30	1	1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)	28	1	2		4	2		8
	29	1	2		3	2		8
	30	1	2		3	2		7
米穀粉用	28	1	1	2	1	3	1	8
	29	1	1	2	1	2	1	8
	30	1	1	3	1	2	1	8
その他用	28	1	1		2	1		4
	29	1	1		1	1		4
	30	1	2		1	1		4
合計	28	20	21	2	21	11	1	77
	29	19	22	2	15	18	2	78
	30	18	21	3	16	16	3	77

〈もち米〉

(単位:万トン)

制度 用途	米穀 年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉 調製品	もち米 合計
包装もち用	28	3	2				2	8
	29	3	3				1	8
	30	2	3				1	7
米菓用	28	1	2		1	1		6
	29	1	2		1	1	1	6
	30	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	28	1	1				1	3
	29	1	1				1	3
	30	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	28	1						1
	29	1						1
	30	1						1
その他用	28						1	2
	29						1	2
	30						1	2
合計	28	6	5		1	2	5	19
	29	6	6		1	2	5	19
	30	6	6		1	1	5	19

注1: 清酒用の( )書きは、酒造好適米で内数。

2: 加工用米飯は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。

3: 焼酎は単式蒸留しようちゅうであり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4: その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5: 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75~1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米(一般的に「くず米」と呼ばれているもの)の総称。

6: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

資料: 農林水産省「マンスリーレポート令和2年10月号・加工原材料用米穀の使用状況(推計)の推移」による。

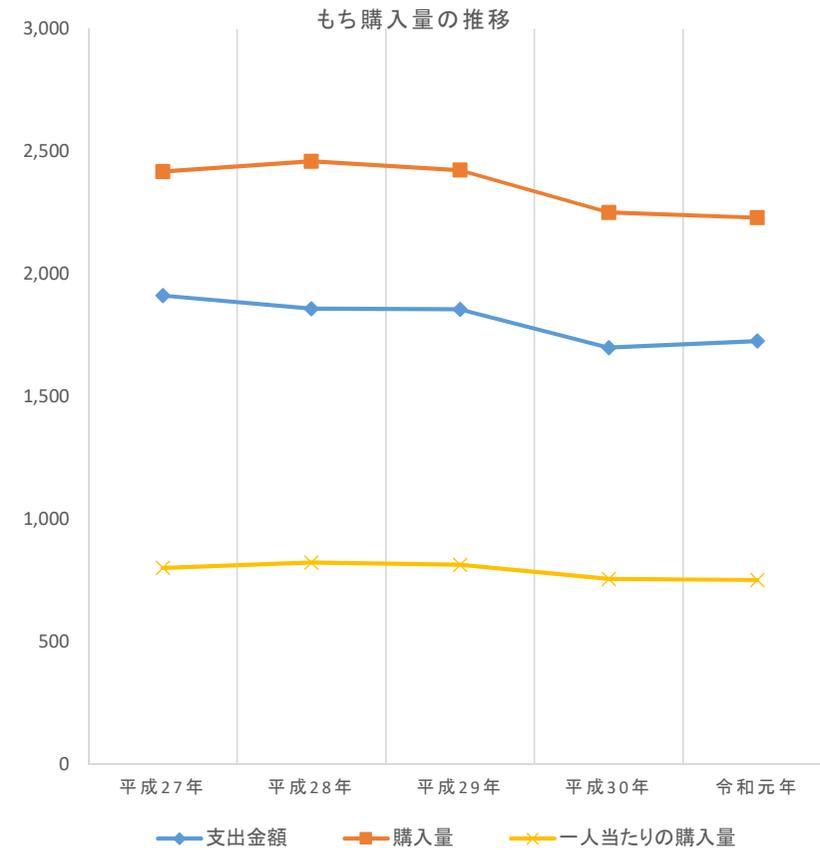
(単位:円、g)

#### 4. 消費

##### もちの購入量

総務省「家計調査」によれば、もちの一世帯当たりの年間購入量、一人当たり年間購入量とも、平成30年には平成29年度までの水準から急減(平成29年対比92.9%)し、平成元年においても引き続きそれぞれの年間購入量が若干減少している。

一方、平成元年の年間支出額は平成30年に比べて若干増加(平成30年対比101.6%)している。



○もちの1世帯当たり年間の支出金額、購入量及び平均価格 (単位:円、g)

区分	支出金額 ①	購入量 ②	平均価格 ①/② (円/100g)	平均世帯人員 ③	一人当たりの購入量 ②/③
平成27年	1,911	2,417	79.1	3.02人	800
平成28年	1,858	2,459	75.6	2.99人	822
平成29年	1,855	2,423	76.5	2.98人	813
平成30年	2,250	2,250	75.5	2.98人	755
令和元年	2,229	2,229	77.5	2.97人	751

注：全国の二人以上世帯の数値である。

資料：総務省「家計調査年報」による。

## 5. 価格

### (1) 生産者価格

業界紙の情報によると、全農県本部等からJAに通知される「もち米概算金単価」は、29年産が需給状況等を反映して引き下げとなった産地が多かったが、30年産は、前年産と同額や若干の増額となった産地が多く、元年産では据え置きないし最大2,000円の上げ幅となっていた。

令和2年産については、殆どの産地で100円から最大1,500円の上げ幅となっている。

### ○ JA概算金単価

(単位:円/60kg)

区分	品種	2年産概算金	対前年比	元年産概算金	対前年比	30年産概算金	備考
北海道	水稲もち米	12,000	+500	11,500	±0	11,500	
岩手	ヒメノモチ	12,300	+200	12,100	+300	11,800	
	もち美人	11,800	+200	11,600	+300	11,300	
	こがねもち(A地区)	12,800	+200	12,600	+300	12,300	
宮城	みやこがねもち	13,500	±0	13,500	+1100	12,400	
秋田	水稲もち米	8,000	±0	8,000	±0	8,000	
福島	こがねもち	11,500	+1500	10,000	+1500	8,500	
	ヒメノモチ	11,500	+1500	10,000	+1500	8,500	
	その他の水稲もち米	9,500	+1500	8,000	+1500	6,500	
山形	ヒメノモチ	13,500	+500	13,000	±0	13,000	
	その他の水稲もち米	11,000	+500	10,500	+1000	9,500	
千葉	水稲もち米	9,500	+1,000	8,500			
富山	新大正糯	14,000	+1000	13,000	±0	13,000	
	その他の水稲もち米	13,200	+1000	12,200	±0	12,200	
新潟	こがねもち(契約栽培)	16,400	+400	16,000	+1000	15,000	
	こがねもち(契約外)	15,900	+400	15,500	+500	15,000	
	わたぼうし(契約栽培)	14,400	+400	14,000	+500	13,500	
	わたぼうし(契約外)	13,900	+400	13,500	±0	13,500	
石川	水稲もち米	12,000	±0	12,000	+2,000	10,000	
茨城	水稲もち米	10,500	±0	10,500	±0	10,500	
岐阜	たかやまもち(A地区)	15,100	+100	15,000	±0	15,000	
佐賀	ヒヨクモチ			12,500	±0	12,500	

注1: 業界紙で報道された全農県本部等からJAに対する概算金単価を整理したものである。

2: 価格は、60kg・1等・包装込み・税込みである。

3: 実際の生産者価格は本概算金から農協手数料を差し引いた額(追加払い金がある場合はこれを加算した額)になると考えられる。

(2)販売価格

もち米取引を安定的に行うため、全国集荷団体ともち米需要者団体との間で、「契約栽培」と「年間契約」が取り交わされている。  
 当該契約の取引のベースとなる基準価格は、安定取引を継続する観点から、これまで大きな変動はあまり見られなかったが、平成29年産は当時の需給事情等を反映して、複数の産地で引き下げられ、平成30年産及び令和元年産の契約栽培の基準価格は、ごく一部の産地で引き上げられたが、ほとんどの産地で平成29年産水準を維持した。  
 令和2年産契約栽培の基準価格は、ここ数年の作付け抑制策によって需給が均衡化されており、ほとんどの産地で前年産から100円～500円の幅で価格が引き上げられた。

○ もち米の販売価格

① 契約栽培

(単位:円)

産地	銘柄	基準着地	30年産契約栽培基準価格	元年産契約栽培基準価格	令和2年産契約栽培基準価格	令和2年産契約栽培販売価格	
北海道	はくちようもち	東京	14,300	-	14,300	↗ 14,800	- 14,800
	風の子もち	東京	14,300	-	14,300	↗ 14,800	- 14,800
	きたゆきもち	東京	14,300	-	14,300	↗ 14,800	- 14,800
	きたふくもち	東京	14,300	-	14,300	↗ 14,800	- 14,800
岩手	こがねもち(A地区)	東京	16,180	-	16,180	↗ 16,480	- 16,480
	ヒメノモチ・もち美人	東京	15,000	-	15,000	↗ 15,300	- 15,300
宮城	みやこがね(一般地区)	東京	16,593	-	16,593	↗ 17,060	- 17,060
	みやこがね(特A地区)	東京	16,893	-	16,893	↗ 17,360	- 17,360
秋田	たつこもち・きぬのはだ	東京	15,000	-	15,000	↗ 15,300	- 15,300
山形	ヒメノモチ	東京	14,500	-	14,500	↗ 14,800	- 14,800
新潟	こがねもち	東京	17,800	-	17,800	- 18,100	- 18,100
	わたぼうし	東京	16,000	-	16,000	- 16,300	- 16,300
岐阜	たかやまもち	大阪	15,800	-	15,800	↗ 15,900	- 15,900
静岡	峰の雪もち	(産地在姿)	14,300	-	14,300	↗ 14,500	- 14,500
福岡	ヒヨクモチ	大阪	15,240	-	15,240	↗ 15,360	- 15,360
佐賀	ヒヨクモチ	大阪	15,300	↗ 15,400	↗ 15,500	- 15,500	- 15,500
熊本	ヒヨクモチ	大阪	14,800	-	14,800	↗ 15,000	-
	峰の雪もち	大阪	14,400	-	14,400	- 14,400	-

注1:生産・集荷団体資料による。

2:建値:60kg、1等、紙袋、基準着地持込価格(税別)である。ただし、静岡県は「置場」である。

3:販売価格は基準価格に対し±5%の幅で出来秋に決定されている。

② 年間契約

(単位:円)

産地	銘柄	基準着地	29年産年間契約販売価格	30年産年間契約販売価格	令和元年産年間契約販売価格	令和2年産年間契約販売価格
北海道	はくちようもち	東京	14,500	-	14,500	↗ 15,000
	風の子もち	東京	14,500	-	14,500	↗ 15,000
	きたゆきもち	東京	14,500	-	14,500	↗ 15,000
	きたふくもち	東京	14,500	-	-	15,000
岩手	こがねもち(A地区)	東京	16,180	-	16,180	-
	ヒメノモチ・もち美人	東京	15,000	-	15,000	- 15,000
宮城	みやこがね(一般地区)	東京	-	16,593	-	-
	みやこがね(特A地区)	東京	-	16,893	-	-
秋田	きぬのはだ	東京	-	-	-	-
山形	ヒメノモチ	東京	-	-	-	-
新潟	こがねもち	東京	-	-	-	-
	わたぼうし	東京	-	-	-	-
岐阜	たかやまもち	大阪	-	15,800	-	15,800
静岡	峰の雪もち	-	-	-	-	-
福岡	ヒヨクモチ	大阪	-	-	-	-
佐賀	ヒヨクモチ	大阪	15,300	-	15,300	-
熊本	ヒヨクモチ	大阪	14,800	-	-	-
	峰の雪もち	大阪	14,400	-	-	-

注1:生産・集荷団体資料による。ただし、令和2年産価格は第1回年間契約分までのものである。

2:建値:60kg、1等、紙袋、基準着地持込価格(税別)である。

(3) 小売価格

① もち米の小売価格

総務省「小売物価統計調査」によると、もち米の小売価格は1kg当たり500円台を中心に400円台から600円台まで幅広く分布しているが、令和元年調査結果を単純平均した小売価格は546円となり、3年前の平成28年調査の平均価格と比べる横ばいで推移している。

(単位:円/kg)

区 分	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		
	対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		
北海道	札幌市	516	3	513	▲3	513	0	518	5
青森	青森市	614	17	607	▲7	585	▲22	544	▲41
岩手	盛岡市	543	▲40	580	37	597	17	559	▲38
宮城	仙台市	599	4	623	24	617	▲6	608	▲9
秋田	秋田市	498	16	515	17	491	▲24	454	▲37
山形	山形市	587	0	610	23	597	▲13	608	11
福島	福島市	695	▲2	627	▲68	628	1	668	40
茨城	水戸市	528	1	570	42	576	6	558	▲18
栃木	宇都宮市	543	1	537	▲6	509	▲28	514	5
群馬	前橋市	487	▲14	476	▲11	487	11	490	3
埼玉	さいたま市	623	20	625	2	627	2	631	4
千葉	千葉市	623	35	598	▲25	608	10	587	▲21
東京	東京都区部	619	33	616	▲3	607	▲9	601	▲6
神奈川	横浜市	583	20	573	▲10	567	▲6	571	4
山梨	甲府市	568	2	568	0	569	1	572	3
長野	長野市	476	3	462	▲14	484	22	546	62
新潟	新潟市	561	▲2	561	0	563	2	564	1
富山	富山市	546	▲1	540	▲6	540	0	548	8
石川	金沢市	583	38	606	23	605	▲1	588	▲17
福井	福井市	565	▲3	571	6	573	2	575	2
岐阜	岐阜市	605	19	603	▲2	594	▲9	567	▲27
静岡	静岡市	564	22	558	▲6	549	▲9	558	9
愛知	名古屋市	538	▲4	541	3	545	4	515	▲30
三重	津市	485	3	493	8	490	▲3	489	▲1
滋賀	大津市	663	23	684	21	682	▲2	680	▲2
京都	京都市	562	▲22	563	1	584	21	583	▲1
大阪	大阪市	571	12	574	3	566	▲8	575	9
兵庫	神戸市	571	35	570	▲1	572	2	576	4
奈良	奈良市	506	▲12	497	▲9	493	▲4	499	6
和歌山	和歌山市	515	4	505	▲10	506	1	501	▲5
鳥取	鳥取市	617	▲4	618	1	579	▲39	606	27
島根	松江市	558	▲23	548	▲10	564	16	539	▲25
岡山	岡山市	508	▲5	529	21	502	▲27	506	4
広島	広島市	554	11	557	3	547	▲10	534	▲13
山口	山口市	490	9	485	▲5	491	6	517	26
徳島	徳島市	492	▲12	466	▲26	497	31	504	7
香川	高松市	462	▲2	457	▲5	459	2	472	13
愛媛	松山市	517	6	519	2	510	▲9	495	▲15
高知	高知市	598	▲1	592	▲6	605	13	597	▲8
福岡	福岡市	516	▲9	491	▲25	469	▲22	472	3
佐賀	佐賀市	519	3	521	2	523	2	523	0
長崎	長崎市	464	6	461	▲3	447	▲14	466	19
熊本	熊本市	492	▲8	491	▲1	509	18	516	7
大分	大分市	485	▲2	492	7	501	9	507	6
宮崎	宮崎市	541	24	531	▲10	522	▲9	528	6
鹿児島	鹿児島市	482	▲3	488	6	492	4	474	▲18
沖縄	那覇市	582	0	588	6	586	▲2	578	▲8

注：都道府県庁所在地における国内産もち米(単一原料又は複数原料米、袋入り(1~2kg))の年平均小売価格である。

資料：総務省「小売物価統計調査(動向編)」(2019年次統計表)による。

(参考) ○ 上記のもち米小売価格の単純平均価格 (単位:円/kg)

28年平均	29年平均	30年平均	元年平均
549	549	547	546

② もちの小売価格

総務省「小売物価統計調査」によると、もちの小売価格は1kg袋当たり600~700円台が多く分布しているが、令和元年調査結果を単純平均した価格は702円/1kg袋となっており、3年前の平成28年調査の平均価格と比べ24円(3.3%)値下がりしている。

(単位:円/1kg袋)

区 分	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		
	対前年比		対前年比		対前年比		対前年比		
北海道	札幌市	713	16	709	▲4	688	▲21	679	▲9
青森	青森市	728	▲19	743	15	767	24	758	▲9
岩手	盛岡市	685	▲2	684	▲1	679	▲5	672	▲7
宮城	仙台市	657	54	591	▲66	591	0	589	▲2
秋田	秋田市	757	▲21	762	5	746	▲16	763	17
山形	山形市	648	45	688	40	681	▲7	634	▲47
福島	福島市	748	5	679	▲69	682	3	677	▲5
茨城	水戸市	915	8	804	▲111	793	▲11	743	▲50
栃木	宇都宮市	794	26	748	▲46	783	35	770	▲13
群馬	前橋市	790	▲6	787	▲3	740	▲47	754	14
埼玉	さいたま市	776	14	767	▲9	688	▲79	716	28
千葉	千葉市	775	2	772	▲3	765	▲7	770	5
東京	東京都区部	707	▲6	707	0	717	10	734	17
神奈川	横浜市	619	14	687	68	656	▲31	589	▲67
山梨	甲府市	677	▲7	677	0	692	15	684	▲8
長野	長野市	627	▲30	678	51	772	94	804	32
新潟	新潟市	778	17	696	▲82	722	26	696	▲26
富山	富山市	664	▲2	646	▲18	637	▲9	642	5
石川	金沢市	732	19	677	▲55	675	▲2	663	▲12
福井	福井市	645	4	641	▲4	646	5	642	▲4
岐阜	岐阜市	618	0	609	▲9	612	3	616	4
静岡	静岡市	749	7	733	▲16	729	▲4	723	▲6
愛知	名古屋市	693	16	703	10	704	1	717	13
三重	津市	762	▲10	767	5	752	▲15	765	13
滋賀	大津市	772	15	761	▲11	746	▲15	757	11
京都	京都市	684	▲11	663	▲21	673	10	650	▲23
大阪	大阪市	620	▲17	629	9	632	3	644	12
兵庫	神戸市	606	3	661	55	678	17	675	▲3
奈良	奈良市	718	4	694	▲24	653	▲41	649	▲4
和歌山	和歌山市	773	▲66	645	▲128	645	0	646	1
鳥取	鳥取市	678	0	674	▲4	673	▲1	654	▲19
島根	松江市	848	85	842	▲6	862	20	806	▲56
岡山	岡山市	781	8	825	44	796	▲29	753	▲43
広島	広島市	746	52	675	▲71	686	11	709	23
山口	山口市	700	0	704	4	693	▲11	680	▲13
徳島	徳島市	790	▲12	788	▲2	729	▲59	716	▲13
香川	高松市	825	26	830	5	825	▲5	812	▲13
愛媛	松山市	735	▲1	738	3	705	▲33	708	3
高知	高知市	596	▲91	591	▲5	587	▲4	584	▲3
福岡	福岡市	749	0	749	0	749	0	738	▲11
佐賀	佐賀市	693	▲4	676	▲17	723	47	717	▲6
長崎	長崎市	719	▲90	752	33	797	45	701	▲96
熊本	熊本市	848	79	817	▲31	831	14	784	▲47
大分	大分市	591	0	591	0	625	34	682	57
宮崎	宮崎市	799	31	712	▲87	756	44	716	▲40
鹿児島	鹿児島市	831	▲2	800	▲31	698	▲102	709	11
沖縄	那覇市	373	▲23	368	▲5	368	0	700	332

注：都道府県庁所在地における包装生もち(1kg袋入り、普通品)の年平均小売価格である。ただし、那覇市の価格は平成30年調査まで400g袋入りの価格である。

資料：総務省「小売物価統計調査(動向編)」(2019年次統計表)による。

(参考) ○ 上記のもち小売価格の単純平均価格 (単位:円/1kg袋)

28年平均	29年平均	30年平均	元年平均
726	712	710	702

注：那覇市の価格は、平成30年調査まで400g袋のものであるため、平均算出から除いている。

## 6. 輸出入

(単位:トン)

### (1) もち米等の輸入

#### ① もち米

もち米の輸入量は一般輸入米、SBS米合わせて、近年は13千トン程度で推移したが、令和元年度は約11.4千トンであった。輸入元はタイ(長粒種)とアメリカ(短粒種)である。

(参考)

・ コメの輸入制度

- ガット・ウルグアイ・ラウンド合意(WTO協定)に基づき、それまで輸入がほとんど行われていなかった米についても、最低限の輸入機会を提供することとし(ミニマム・アクセス米(MA米))、1995年度以降、ミニマム・アクセス数量(現在は77万玄米トン)について、無税の輸入枠(関税割当)を設定。
- MA米については、国産米に極力影響を与えないようにするため、国が一元的に輸入して販売(国家貿易)。
- TPP11協定においては、国家貿易制度を維持し、豪州向け国別枠(関税割当)を設定。
- MA米及びTPP11豪州枠以外の輸入には、高水準の枠外税率を設定。
- 令和元年度の輸入数量は、一般輸入米が681千玄米トン、SBS米が77千玄米トンである。

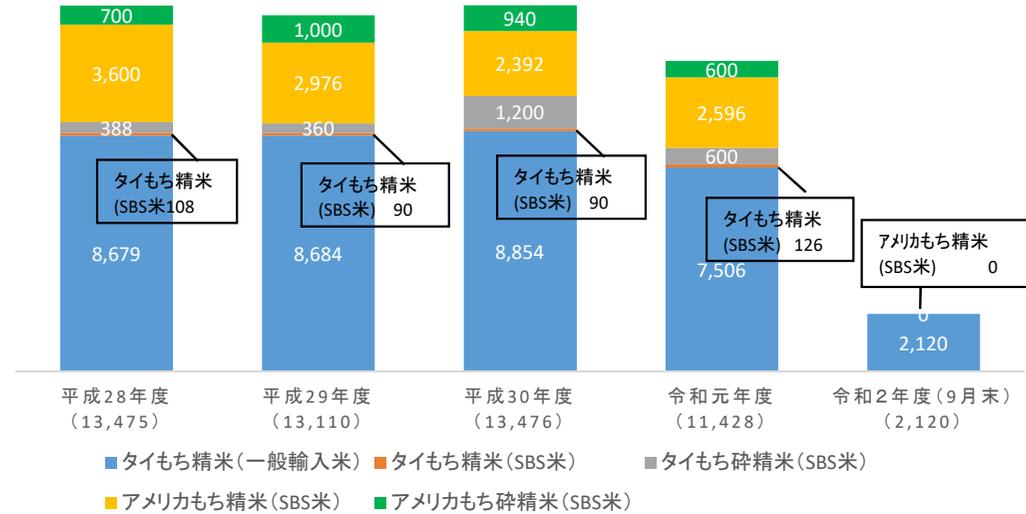
(出典：農林水産省「米をめぐる状況について(令和2年7月)」及び「米に関するマンスリーレポート(令和2年4月号)」から。)

#### ② 米菓

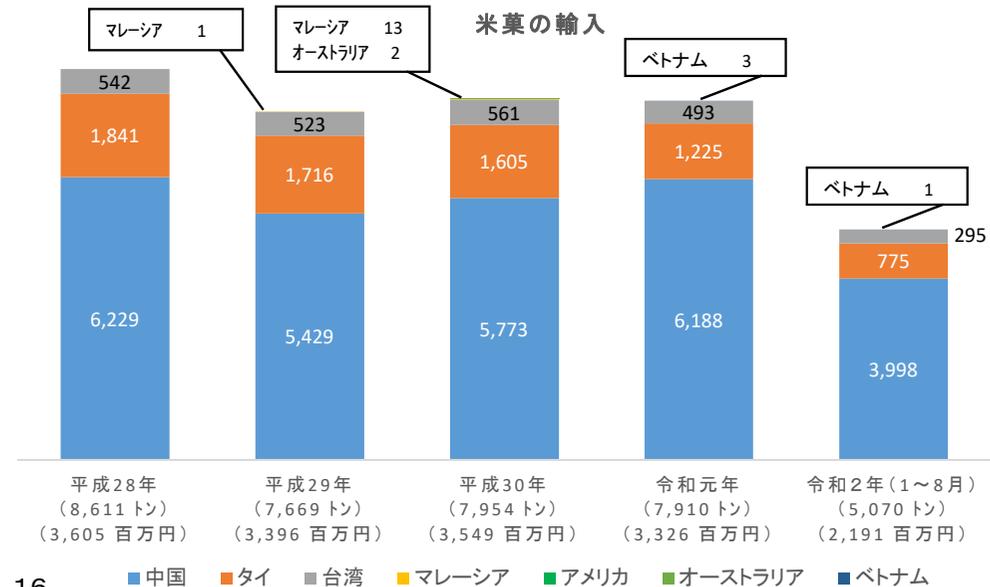
米菓の輸入量は最近では8千トン程度で推移しており、輸入元は中国、タイ、台湾などであるが中国が全体の約8割を占めている。

(出展：財務省「貿易統計」(2020年8月までのデータ)による。)

もち米の輸入量(MA米)



(単位:トン)



### ③ 米粉調製品

米粉調製品の輸入量は平成26年以前の8～9万トンの水準から大幅に減少したが、令和元年では7.3万トン程度となっている。タイ、アメリカ、中国からの輸入が太宗を占めている。

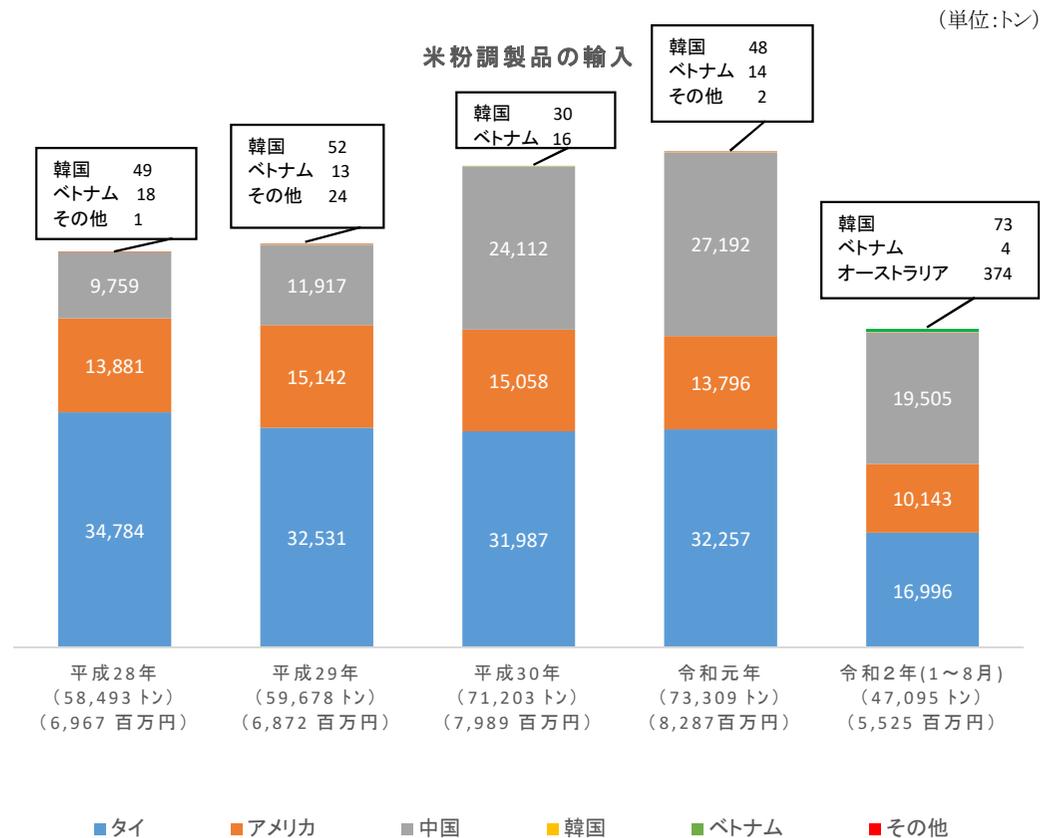
(参考) 米粉調製品とは

米粉調製品は、米粉に砂糖やでん粉を混入したもので、米菓、穀粉、包装もち等の原料として使用される。

米粉の含有量が85%以下のものは、昭和37年から輸入が自由化されており、関税率は16.0%（無糖）、23.8%（加糖）となっている。

なお、米粉の含有率が85%を超えるものは、米と同様の税率（341円/kg）となっている。

〔 出典：農林水産省「農林水産物 品目別参考資料(平成27年11月)」、「米粉調製品の輸入実態とその影響(平成13年3月26日)」 〕



(出展：財務省「貿易統計」(2020年8月までのデータ)による。)

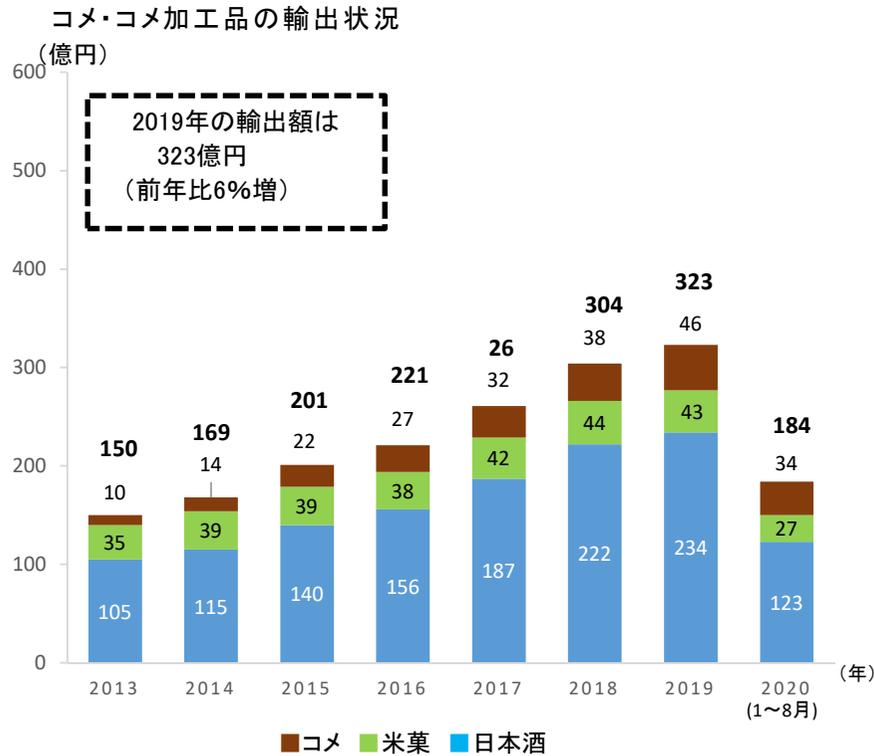
## (2) 米・米加工品の輸出

- 2019年のコメ・コメ加工品の輸出額は323億円(前年比6%増)。
- うちコメの輸出は前年比23%増の46億円(数量では17,381トン、前年比26%増)。特に香港・シンガポール・米国・中国向けの輸出が大幅に増加。
- 2020年3月31日に閣議決定された新たな食料・農業・農村基本計画において、2030年の農林水産物・食品の輸出額目標を5兆円と設定。うちコメの輸出額は261億円が見込まれている。

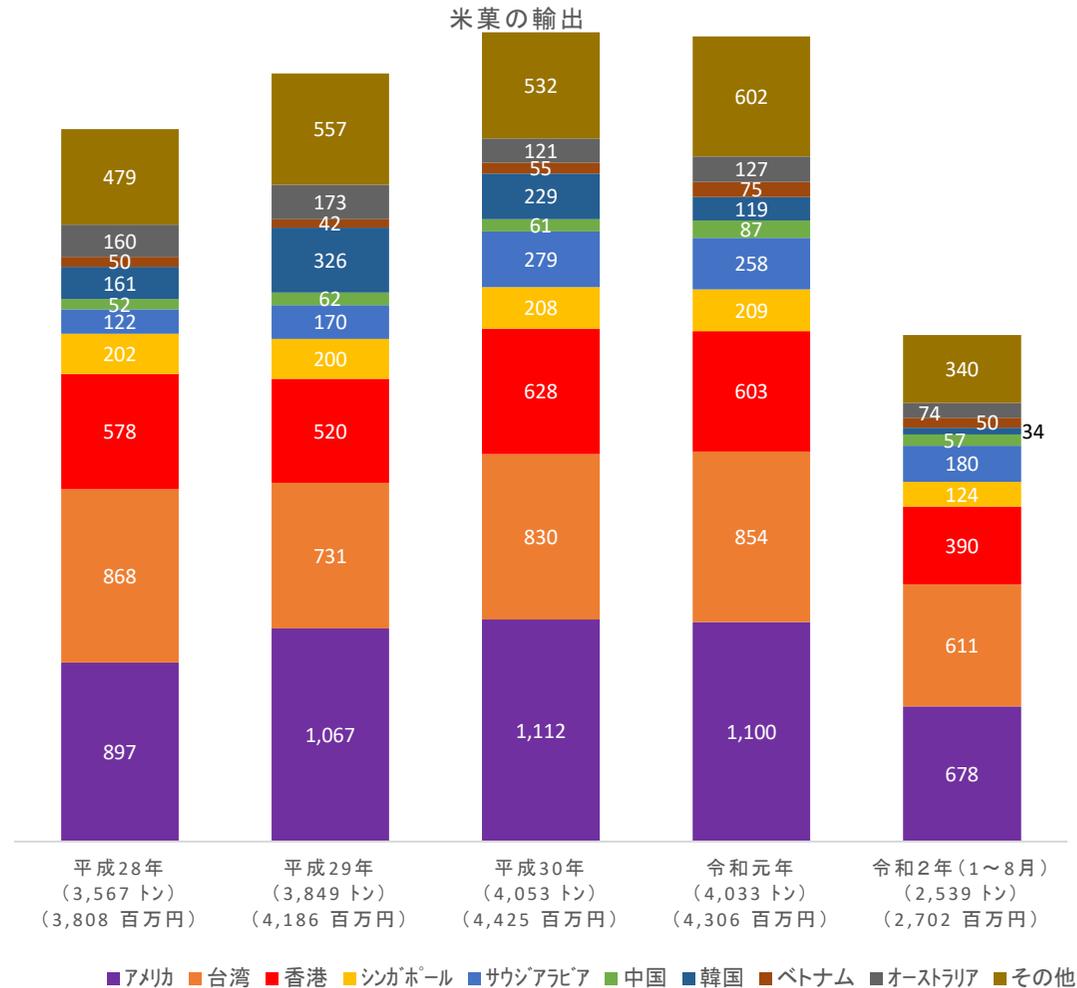
### ○ 米菓の輸出

米菓の輸出量は4万トン程度で推移している。東南アジア、欧米、中東、北南米と世界各国に輸出されているが、最近ではアメリカ向け、サウジアラビア向け、中国向け、及びベトナム向けが大幅に増加している。

(単位:トン)



(出典：農林水産省「米に関するマンスリーレポート」(令和2年10月号)による。)



(出典：財務省「貿易統計」(2020年8月までのデータ)による。)